

1. 調査の概要

1.1 調査範囲

群馬県全域を対象とした（図 1.1-1）。

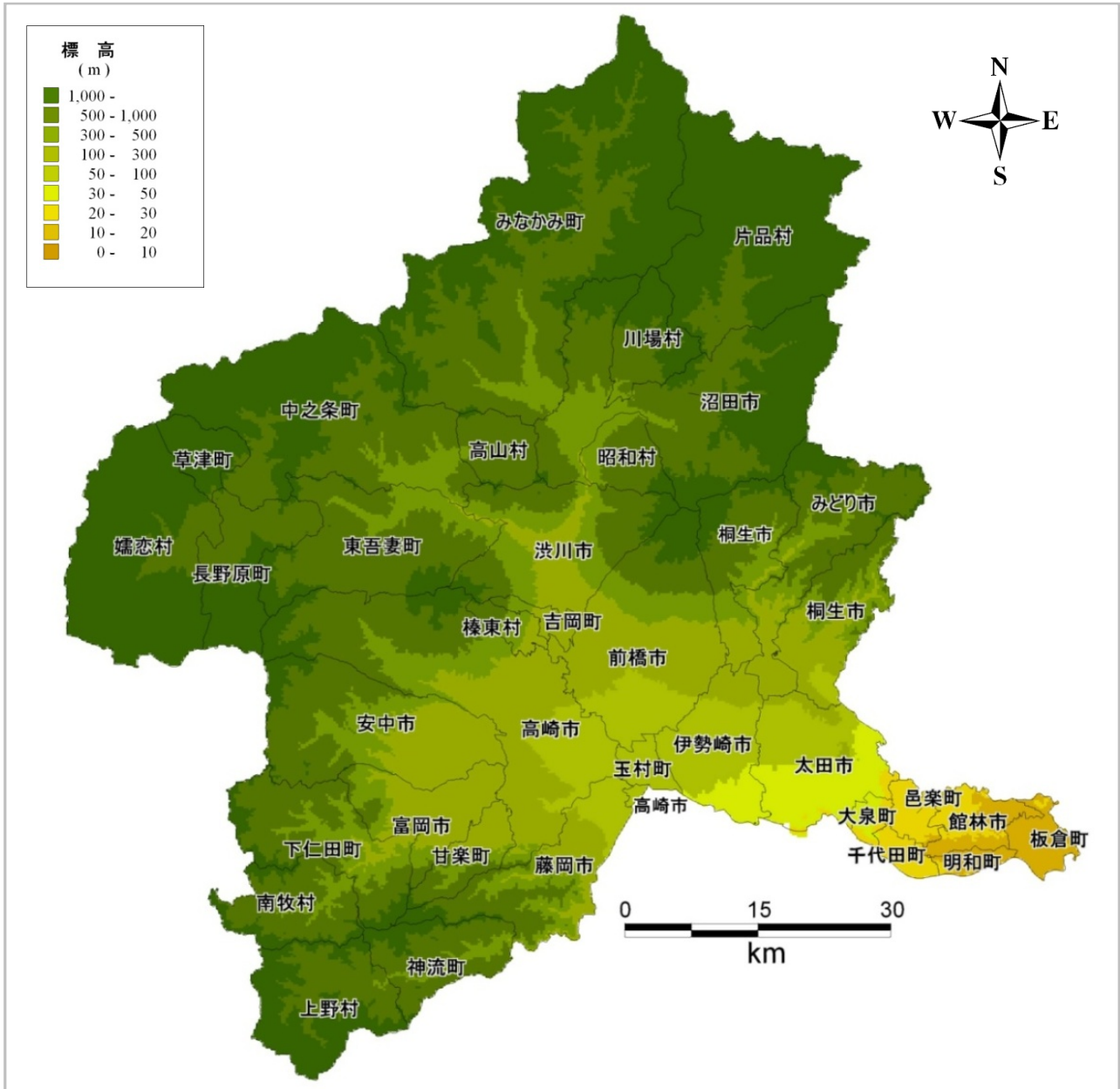


図 1.1-1 調査範囲である群馬県の市町村（平成 24 年 3 月現在）

※標高分布は、日本地図センター発行の数値地図 250m メッシュ（標高）のデータを利用して作成。

1.2 調査項目と調査フロー

図 1.2-1 に調査項目と調査フローを示す。

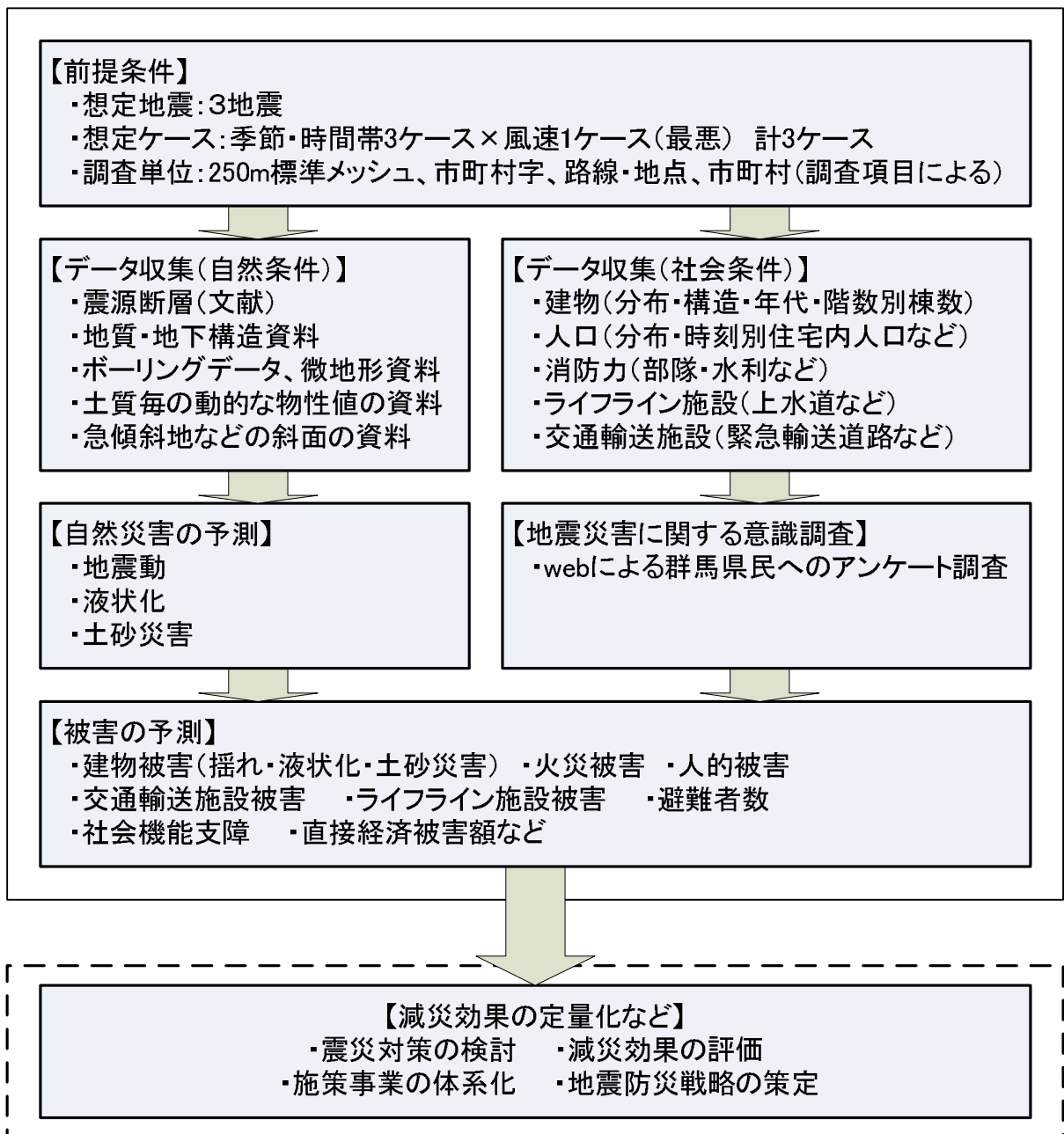


図 1.2-1 被害想定調査項目と調査フロー図

※ 地震動の算出及び被害予測など解析・評価を行う単位は、基本的に 250m メッシュ (約 250m × 約 250m の四角形)。標準地域メッシュ (昭和 48 年行政管理庁 (現 総務省) 告示第 143 号) の第 3 次メッシュが 1km メッシュだが、その 1/4 地域メッシュが 250m メッシュとなる。

1.3 地震被害想定における条件設定

地震による被害は、季節・時刻の違いや気象条件等の違いによって大きく変わるため、想定地震ごとに表 1.3-1 に示すケースを設定して被害予測を行う。

表 1.3-1 季節と時刻及び風速の想定ケース一覧表

No.	季節：時刻	想定ケースの説明	風速
1	冬 5時	<ul style="list-style-type: none">・ 大多数の人が住宅で就寝中に被災して、住宅の倒壊や家具の転倒などによる死傷者数が最も多くなるケース。・ 屋外滞留者数は少なくなる。・ 1995年兵庫県南部地震と同じ発生時間帯。	9 m/秒
2	夏 12時	<ul style="list-style-type: none">・ 大多数の人が通勤・通学先に移動している平日・日中の平均的なケース。・ 住宅内の滞留者数は1日の中で最も少なくなる。	7 m/秒
3	冬 18時	<ul style="list-style-type: none">・ 火気の使用が一年中で最も多く、地震による出火数や火災の被害が最も多くなる平日のケース。・ 3つのケースの中では、帰宅・移動などで屋外滞留者数が最も多くなる。	9 m/秒

風速については、過去10年間(2002-2011)の前橋地方気象台の観測記録をもとに、季節毎に強風(最悪)のケースを設定した。これは、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの想定地震を設定したことに準拠するものである。